

2019 夏を楽しもうの会
2019 クリスマスパティー
2019 お別れ会

私達は尼崎の子ども支援施設や子ども食堂に通う、様々な問題を抱えた子ども達の「居場所づくり」をテーマに一年間活動を行いました。まず私達は、先輩方が活動の拠点としていた尼崎市立すこやかプラザのスタッフの方と話し合いを行い、そこや子ども食堂に通う小学生達と中学生の存在を知りました。家にも学校にも居場所がないと感じている子ども達との距離の縮めるために、まずは尼崎市立すこやかプラザが毎月第三・第四土曜日に行なっている子ども食堂に参加することから始めました。

●夏を楽しもうの会●

(日時) 2019年 8月 6日 (火)
(場所) 甲山キャンプ場
(参加者) 尼崎市立すこやかプラザに通う
小学生 (9名)
(学生スタッフ) 6名

しばらく通う内に子ども達との距離も徐々に縮まり、さらに交流を深めるためのイベントを何かしようと考え、夏の思い出づくりのために、「夏を楽しもうの会」を企画しました。NPO 法人子ども環境活動支援協会 (LEAF) の協力を得て、甲山キャンプ場にて甲山農



地で採れた野菜を使ってバーベキューをすることにしました。前日に甲山農地まで私達が野菜を採りに行きました。とても綺麗で新鮮な野菜を子ども達に食べてもらうのが待ち遠しかったです。また、火起こしの体験がないだけでなく、火が熱いことも知らない子どもが増加している、といった現状から子ども達に火育や西宮市の自然と触れあう体験をしてもらおうと考えました。わかりやすく伝えるために事前に火の歴史や野菜についてのクイズを取り入れたしおり作りもしました。

当日は天気にも恵まれ、9人の小学生が参加してくれました。尼崎市立すこやかプラザで集合し、皆で電

車とバスを乗り継ぎ甲山キャンプ場まで行きました。



しおりをよく読んでもらい、いよいよバーベキューです！準備した野菜を好き嫌いもせず、「美味しい！」と全部食べてくれました。それ以外にも農地の野菜を使った焼きそば作りもしました。

焼きそばを作る際に、木の枝を使って火起こしの体験もしてもらいました。楽しむだけでなく、その後は片付けも皆で一緒に手伝ってくれました。甲山キャンプ場の近くには仁川があり、バーベ



キューの後は子ども達と川遊びをしました。川遊びは初めての体験だったようで、私達の想像以上に楽しんでくれました。ここ近年で、自然と子どもが触れ合える



機会が無くなってきていることが問題とされている中で貴重な経験をしてもらえたと思います。一緒にイベントに来て

くださった施設の職員さんも、「子どもたちのこんな楽しそうな姿は見たことがないです。」と驚いていらっしゃいました。また、「学生さんが、川で一緒に真剣に遊んでくれたことで、子ども達が本来持っている無邪気な子どもらしさを引き出してくれたように感じました。」と嬉しいお言葉もいただきました。

尼崎市に住む子ども達にも、「すぐ近くの西宮市にはこんなにたくさんの自然があり、その自然は地域の方々によって守られている」ということを知ってもらえたのではないかと思います。今回のイベントでは、子ども達が喜んでくれて嬉しかった反面、朝食を食べ



てきた子が1人しかおらず、普段の子どもたちの環境に改めて気付かされたこともありました。様子を見てみると寂しい思いをしているという気持ちが伝わってき

ました。そんな皆にとって、今回のイベントが楽しい

夏の思い出として記憶してもらえれば何よりです。

●クリスマスパーティー●

(日時) 2019年12月7日 (土)

(場所) 神戸女学院大学

(参加者) 尼崎市立すこやかプラザに通う
小・中学生 (11名)

(学生スタッフ) 6名

2回目のイベントを企画する上で、大学生の私達にしかできないことは何か考えました。前回のイベントのアンケートで子ども達から「クリスマスパーティーがしたい!」という意見があり、そこで自然に触れて学べる本学の特徴を生かし、大学でイベントを行うことにしました。施設のスタッフの方とご相談させていただき、今回は子どもたちが自分たちで考えて行動し、自主性を高めることができる内容にして欲しいと依頼を受けました。それ以外にも譲り合いの心を学び、その上で協力し合い何かをやり遂げることの面白さや達成感を感じてもらえるようなアイデアを取り入



れたクリスマスパーティーを計画しました。

まずは神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」とは何かを学んでもらおうと

思いました。今回のイベントはクリスマスをテーマとしたので、子ども達にわかりやすく伝えるために、関連付けたクイズを前回のようにしおりに取り入れました。子ども達に喜んでもらえるように、教室の飾り付けに学内で採集した松ぼっくりを使ったクリスマスツリーも用意しました。

当日は前回にも参加してくれた子全員に加え中学



生も来てくれ、尼崎から11人の子ども達が参加してくれました。私達の話をお子から聞き、初めて来てくれた子もいました。私達は工作班と料理班に担当を分けイベントスケジュールをこなすことにしました。教室に着いてから、まず工作班が皆と「愛神愛隣」につ

いての勉強、そしてクイズのプログラムを進行しました。クイズは「あなたとお友達の4人でケーキを食べ

ようとしています。すると、向こうからお腹を空かせた男の子がやってきました。あなたはどうしますか?」という質問です。子ども達からは「自分のケーキをわける」「わからない」と様々な意見が出ました。そこで「愛神愛隣」とは自分が信じている神を愛し、自分の周りの人を大切にするのであり、私達大学生はその精神に基づきイエス様のようにすべての人を平等に愛さなければならないことを神戸女学院で学んでいると伝えました。子ども達は真剣に耳を傾けてくれていました。

その後は、スノードーム作りをしました。使用するオブジェは、同じものを選んだ子が多いときにお互いに譲り合うことが出来たらと思い、人数分準備せず種類によってあえて数を少なくしました。また前回のイ



ベントの時に、子ども達の中で皆とはうまく仲良くできていない子もいました。その子が一人になつたり

しないように工夫して、全体を見ながら子ども達とコミュニケーションを取りました。そうしたことにより、材料の取り合いになることもなく楽しい工作の時間となりました。子ども達に「愛神愛隣」の精神が伝わっているように思い、嬉しかったです。

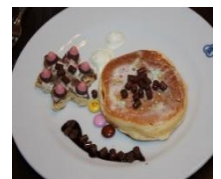
中のデザインは自由に考えてもらい、モールでツリーを作る子や、綿を雪に見立てて作っている子など、それぞれ個性の溢れた素敵な作品ができました。私達では思い付かないアレンジに、とても驚きました。

お昼はケンウッド館に移動し、料理班が作ったシチューとハンバーグを食べました。どちらも子ども食堂で学んだメニューです。野菜はクリスマスのキャラクターの型取りをして、子ども達が目でも楽しんで食べてもらえるように工夫しました。中には4回もおかわ



りしてくれる子もいました。あっという間にお鍋は空っぽになりました!

お昼ご飯を皆で食べた後は、私達が先に作っておいたパンケーキに好きなようにデコ



レーションをしてもらいました。ここでも、皆が自分から材料を譲り合ってくれたので、一生懸命考えたクイズの成果が出ていて嬉しかったです。

そして午後からは女学院探検です！キャンパス内を案内しながら、紅葉など学内の自然を体験してもらいました。子ども達の中には不登校気味の子や保健室登校の子もいますが、目を輝かせながらキャンパスを見渡していました。

キャンパスツアーの後はグラウンドで遊びました。寒い中皆で走り回り、普段学校ではこのように遊ばない子ども達が嬉しそうに見えました。



最後にアンケートに答えてもらいました。アンケートでは、今日のイベントで友だちのどんなところが良かったか、または見習おうと思ったかを記入してもらいました。特に中学生の



子が小学生の面倒をすごくよく見てくれていたという意見が多く、他の子の頑張っている姿もよく観察してくれていました。子ども達の視野も広げる

有意義なイベントになったようです。また、大学ではこんなにたくさんの方が学べる場所なのだということを子ども達に知ってもらい、少しでも未来への選択肢が広がってくれたら嬉しいです。

●総括・お別れ会●

(日時) 2020年2月16日 (日)
(場所) 尼崎市立すこやかプラザ
(参加者) 尼崎市立すこやかプラザに通う小・中学生 (8名)
(学生スタッフ) 6名

一年間の活動の総括として、尼崎市立すこやかプラザで子ども達とお別れ会を開催することにしました。企画を伝えた時から子ども達は「早くお姉さんたちに会いたいな」と心待ちにしてくれていたようです。ホールの一部屋をお借りし、ジェスチャーゲーム、フルーツバスケットをしました。ジェスチャーゲームを取り入れたのは、楽しみながらも子ども達の思考力と伝達力をあげるためです。様々なお題を出し、体を使って表現してもらいました。

お昼は甲山農地で育ったお米でおにぎりを皆で作りました。実際に私達が学外実習で田植えと稲刈りをしたお米です。食前に子ども達に、写真を見せながら



お米ができるまでの流れの説明やクイズをしてお米一粒の大切さを学んでももらいました。「甘くて美味しい！」と言って何個も食べてくれ、

一粒も残さず、お米をいただくことが出来ました。

食後は私達から一年間のお礼を述べ、子ども達一人一人へ感謝の気持ちを込めた手作りのメッセージカードを贈りました。皆、とても嬉しそうに受け取ってくれ、しばらく眺めていました。私達へプレゼントを持ってきてくれた子もいました。子ども達の気持ちが嬉しく、私達の方が色々を受け取るものが多いお別れ会となりました。



子ども達は初めころは私達と少し距離がありましたが、今ではとても懐いて名前でも呼んでくれるようになりました。私達自身も、心を通わすようになってからはイベントを計画する際も、子ども達一人一人のことを考えながら進めるように変化していきました。思うように計画が進まず班のメンバーで話し合った時期もありましたが、子ども達の笑顔を見る度に、この活動には意味があったのだなと実感することが出来ました。また中学生の子は、途中より自分から進んで塾に通うようになりました。短い間でしたが、この1年間の様々な面で子ども達の成長を何うことが出来ました。

いつもイベントに来てくれた子ども達、尼崎市立すこやかプラザのスタッフの皆様、こども環境活動支援協会の皆様、本当にありがとうございました！

